



# 五郎沼通信

第12号 平成28年5月1日発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。  
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」  
事務局 瀬川峰雄  
紫波町南日詰字小路口70-1  
電話：019-672-2656 (FAX兼用)  
携帯：090-2270-6771  
m-mail：segawa@mineo.jp  
Pcmail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

## 桜の3年比較と植樹に関して

今年も五郎沼の桜は、がらばって咲いてくれて、私たちに美しい花を見せていました。今年は暖冬のため、大分早い開花と思つてましたが、ほぼ昨年と同様時期の4月18日が3分咲きでした。

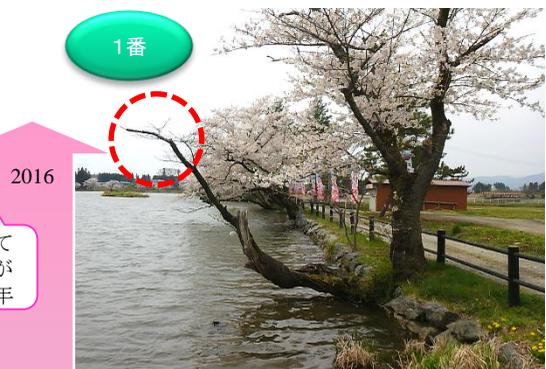
左画は沼の入口から数えて「1番」と「26番」桜を3年間で比較したものです。どうでしょうか？違いがわかりですか？(画像が悪いかから良く分からない！とお叱りを受けそうですが)

【1番】は2年前に赤丸内あつた花弁が今年はありませんでした。残念！

しかし、「26番」五郎沼の桜で一番疲労が激しい桜は、一昨年よりは花弁数は少なくなっているものの、昨年よりは増えていると(キノコ駆除また、施肥をしているからか)どうしても感じてしまいます。

昨年度は本来行うべき桜苗木の植樹の事業でしたが、五郎沼周辺の整備としての松くい被害木の伐採に時間を費やしてしまいました。本年度こそは、桜と桜の間が開いている場所(下図)のような場所への桜苗木の植樹をすすめていきます。

今年も史跡五郎沼愛護会にて、古代ハス池・経塚跡の整備と、松くい被害木の桜枝の焼却作業を行いました。今回は、松くい被害木、経塚跡整備の焼却樹木が多く、時間もかかりましたが、観桜客のためにも下の写真のように、小高い経塚跡から湖面全体に映る桜が美しく見えるスポットが出来上がりました。



2016  
昨年と比較して右上部分の花が多くなった本年



2015  
昨年の姿



2014  
全体的にまだ花弁が多かった一昨年



桜が枯れてしまい伐採したため、間隔が開いている場所

## 古代ハス池と経塚跡整備をしました



箱清水メンバー中心でハス池整備



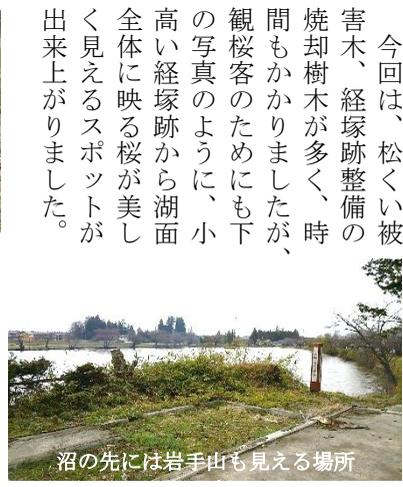
小路口メンバー中心で経塚整備



いつもより多かった焼却木



大きく景観を崩していた樹木の伐採



沼の先には岩手山も見える場所

# 五郎沼古代ハスの染物の話し

五郎沼にある古代ハスの茎、葉、花托など素材にして生地  
の染物で試作しながら、「五郎沼の平泉との関連性」を  
もっと世の中にアピールのお手伝いをしたいと「現代の名  
工」に選ばれた花巻・石鳥谷の滝浦輝夫さん（71歳）は話  
されております。



同じ生地ですが、製造方法により上の濃いめと下の薄めに染め色が変化することです

葉・茎からの染め「染めをやって見ないと分からない部分もありますが、すばらしい色合いになると思います」と滝浦さんは話されていました。

花托（かたく・蜂の巣状に見える部分）・・・左画像の染め物（マフラー）は古代ハスではないですが、蓮の花托での試作品です。※実物は金色に見えました。



1909年祖父が石鳥谷町に創業した染物店の3代目。30歳の時、家業を継ごうと東京から帰郷した滝浦さんは、40年余にわたって技術を追究している。現代の名工選出には「まだまだ課題を抱えており、そのような評価は恐れ多い」と謙遜した。

化学染料の登場で大量生産時代が到来したが、一貫して天然由来の藍染めにこだわり、「過去への回帰。この再現が自分の出発点

だ」と言い切る。

86年にオープンした盛岡市繫の盛岡手づくり村に工房を移して本店とした。自然豊かな場所の工房で静かにものづくりに励み、いい商品を仕上げて訪れる客に購入してもらおう。

構想に共感した当時70歳だった父の故成三さんを「人生最後の花を咲かせてあげたい」と支えた。花巻市内の店舗「和藍」から週に3、4回工房に通う生活は今も続

く。

タデ科の藍草を使い「木灰水発酵建て」と呼ばれる昔ながらの技術を徹底。型染め、絞り、筒描きといった手法を駆使し、多種多様な注文に応じてきた。

現在は自ら地藍を育て、藍染めの新たな地平を目指す。「種をまき自分の品種を育て、その土地で生まれた染め物こそ本当の私を語るができる」と情熱は尽きない。（岩手日報2015. 11. 10）

細巾布で藍染のパーティション（間仕切り）



平成24年度いわて特産品コンクール『岩手県知事賞』受賞

## 第2次紫波町観光振興計画

今後町が取組む振興計画が策定されましたので、会員みなさんに「五郎沼」関連部分を抜粋してお届けいたします。

### 第3章

観光振興に向けた施策

基本方針1 観光資源の発掘と魅力向上

施策3 紫波町の魅力向上

■平泉関連史跡等の魅力向上  
・平泉とのつながりや遺構の紹介など、分かり易い情報発信に努めます  
・比爪氏斯波氏の歴史シンボジウム、山城サミット等の開催を検討します  
・五郎沼周囲の散策路の整備や桜の保全などに努めます。

### 基本方針4

おもてなしの気持ちの醸成と受入基盤の整備

施策2 受入基盤整備

■観光施設の維持管理と整備等  
・史跡等の歴史文化関係施設の修復と保全に努めます。

・駐車場、道路標識の整備と維持管理を図ります。

### 基本方針5

以上を推進する協働、連携の体制づくり

施策2

平泉関連など歴史文化関連団体との連携

■平泉町観光協会との連携

・紫波町と平泉町のパンフレットの相互設置を図ります。  
・平泉町と比爪氏関連遺跡、義経伝説を巡る観光ツアーの開発に努めます  
・中尊寺や古代ハスの関連について、町外関連団体等の連携を検討します。

### 施策3

広域観光関連団体等との連携

■岩手県と連携した平泉関連遺跡の振興  
・いわて県民計画地域編や「平泉の文化遺産」活用推進アクションプランなど、広域による平泉を生かした周遊型観光推進について、紫波町の立場や比爪館の位置付けなどを、積極的に要望、PRします。



花巻市の小田島さん

【編集後記】  
4月23日（土）桜の状態がどうかと観察をしていたところ、初めて五郎沼に来た方らしいのですが、「景色がすばらしいので……」とすばらしい油絵を描いていた方がいました。7月の古代ハス開花後は写真家さんがたくさん来ますが、このような光景は、それだけで「絵」になりますね……

……お知らせ……  
「五郎沼の桜を守る会」総会

日時：平成28年5月21日（土）  
18:30～  
場所：箱清水公民館  
※当日、平成28年度会費2千円をお願いいたします。